

極真かぶと新聞 5月号

発行 支部長・師範 岩田 厚

平成22年5月13日発行 (五段、中級教育カウンセラー、上級加圧トレーニングインストラクター)

<http://www.kyokushinkarate.org/>

極真精神 「頭は低く、目は高く。口慎んで、心広く、孝を原点として他を益す。」

第6回国際親善空手道選手権大会

平成22年4月24・25日 千葉幕張メッセ



大会結果 (支部内)			
型・15歳～17歳男子の部	準優勝	山本	岬
組手・12歳 -50Kgの部	第3位	谷口	敦規
組手・15～17歳 +50Kg	第3位	植松	綾
組手・35～39歳 中量級	第3位	園田	敏貴



海外選手の出場する国際親善大会の開会式(初日) 型・15～17歳女子の部に出場した山口彩菜は決勝進出



試合を終えた選手



山本、植松、谷口と記念写真



第3位入賞の園田敏貴

5月	16	日	香川・岡山西支部内交流試合	笠岡市民体育センター
6月	6	日	岡山西支部 昇級審査会	笠岡市民体育センター
	12、13	土日	全日本ウエイト制空手道選手権大会	大阪府立体育館
	19	土	香川支部 昇級審査会 丸亀会場 (予定)	
	20	日	昇段級審査会 高松会場 (予定)	
6月	27	日	全中国空手道選手権大会	広島市
7月	25	日	全四国空手道選手権大会	愛媛県
7月	31	土	夏合宿	五色台青少年自然の家
8月	1	日		

== 普通救命講習会のご案内 ==

普通救命講習会を消防署より講師の先生を招いて下記の日時で行います。道場生はもちろん、この機会に保護者の方のご参加をお待ちしています。詳しくは、申込用紙あるいはホームページをご覧ください。

● 6月6日（日）午後1時30分～4時30分
笠岡美の浜道場

● 6月20日（日）午後2時～5時
高松太田道場

黒帯随想

近藤 裕幸 三段

■ 少年時代

山や川や田んぼに囲まれた、愛媛の片田舎に生まれました。小学校時代は身体も小さく、引っ込み思案な反面、負けず嫌いなところもあり、よく上級生と取っ組み合いのケンカをしては負けて泣かされていた記憶があります。

中学・高校はサッカー部に所属し、走り込んで体力も自信もつき、勉強そっこのけで友人たちと自転車で遠くまで行って遊んだり、他校の生徒とケンカしたり仲直りしたり、結果友情が芽生えたりした事を思い出します。

サッカーは真面目にしていたのですがなぜか(?)父親が度々学校に呼び出されたり、校長室へ毎日通ったりと、少しヤンチャな青春時代を送ったのを覚えています。

そのころ誰しも思う、「ケンカに強くなりたくて」、ブルース・リーの映画を見て、少林寺拳法の本を読み、隣町に拳法道場ができたと聞いては、「道場に通いたい！」と両親に言っていたのですが、「ケンカの拍車になるから、とんでもない！」と反対されました。この辺は現在の少年部の状況(入門の動機)とはちょっと違います。

仕方なく、拳法の本を参考に、内緒で実家の納屋裏に自家製サンドバック(厚手の布袋に藁ヒモをギュウギュウ詰め込んだもの)をつくり、カンフー映画の見よう見まねで叩いたりしてましたが、父親に見つかって、即日外されたのを覚えています(泣)。

■ 極真空手との出会い

地元愛媛に就職しましたが、高校時代からの友人が松山市の実戦空手道場(元々は極真空手です。)に入ったため、複数の友人たちとミットやサポーターを買い込み、休日は体育館を借りて「空手愛好会」みたいなことをやっていました。

現在のK-1が始まる少し前の頃です。

しかし、連日仕事が遅くなっても、「何とか空手道場に通いたい！」と思い、友人の通う実戦空手道場に見学に通いました。

そんなある夜、「何故か、」突然気が変わり、「あの『史上最強』の、極真空手って、どんなんだろう？」と、普段とは逆方向に車を走らせました。私が最初に入門した愛媛の道場です。

様子を見ようと、ドアを開ける前に立ち止まってしまいました。

ドアの向こうから聞こえてくる、ただならぬ「気合い」と「熱気」、サンドバッグやミットの音、先生と思われる人の「もっと気合入れろ！ガンガン叩け！休むな！」という声です。

それもそのはず、その道場から2人、全日本大会に出場する先輩がいたからです。

意を決して道場に入り、見学を申し出ると、黒帯の指導員先生が汗だくの顔でにっこりと笑って、

「どうぞ見て行ってください。今は大会前なので、ちょっとキツめの稽古をしています。」との事。もうその熱気だけで「よし、やってみよう！」と思いました。

しかし入門はしたものの、仕事が遅い時間終わるため、ほとんど終了9時前に入り、ミットかスパーリングだけして、



帰りにウエイトトレーニングジムに通って、の繰り返しでした。(道場生の皆さん、基本と移動と型をおろそかにしてはダメですよ！)

しかも、当時のキョクシンの厳しさ故、すぐ辞める生徒が多かったため、数ヶ月は道着は頂けず、スウェットで稽古していました。

■ 試合と稽古と・・・

当時は四国四県で、県大会、交流試合など、たくさんの大会がありましたので、片っ端からエントリーし、その勝敗結果に一喜一憂していました。

また、ある先輩から、「平日稽古できない人の為、土日に特別練習しよう」と、3～4人のメンバーで体育館や公民館を借りて、ダミーミットやガンダム、スパーなど延々2時間ほどこなしていました。

「近藤さんは身体がちっちゃいし、体重も軽いんだから、大きい選手の倍練習して、組手では倍動かなくてははいけませんよ。」と、いつも言われていました。

その休日稽古のあまりのしんどさに、終わると皆、トイレで胃液まで吐いていました。

サッカーをしてスタミナには自身があった私ですが、見事、打ち砕かれてしまいました。

この合同自主練は、辛くて苦しかったですが、試合に出れる喜びや、そして何より、稽古の後の食事会(飲み会?)でした。

今も愛媛支部で頑張っている仲間とで和気あいあい、主に私のアパートで、コンビニやスーパーで買い込んだおにぎりやおかずやビールが、みるみる減っていき、夜明け近くまで空手談義に花を咲かせていたのが昨日のこのようです。

俗に言う、「山賊の酒盛り」です???

■ 香川への転勤、岩田師範との出会い

帯は1級をとって約2年、全四国大会で優勝候補の黒帯の先輩とも敢闘(?)した為、道場の先輩から、「次は初段、そして夢は大きく、ウエイト制を狙おう！」といった矢先、転勤で香川へ。

当時は諸々の事情で、香川に(現在の)極真会館はありませんでした。

一旦燃え上がった熱い情熱ですが、道場がなくては何もならず、夜、仕事を終えてから自主トレで土手を走っては、真っ暗な橋の下でシャドーをしたり、ウエイトトレーニングの為、ジムに通う日々が続きました。

当時、合間を見てわざわざ徳島から香川まで来て稽古をつけてくださった三宅師範には本当に感謝しています。・・・三宅師範「近藤君、相変わらず型が下手だな～」・・・

そんな矢先、岩田師範が香川支部長に就任され、上福岡本部道場で稽古をすることになりました。

岩田師範は、最初お会いした時からインパクトがありました。

人一倍厳しく、優しく、情が深く、男気があって、どこことなく茶目っ気があって、私にとって、空手の先生、人生の先輩であると同時に、「父親」のような「兄」のような存在でもありました。男として「こんな男になってみたい。」と思う一人でもあります。

現在でも第一印象から少しもその軸がブレていないということは、岩田師範の信念の軸がブレていない事に他ならないと思います。

支部発足当時、一度か二度、岩田師範と組手かスパーをした記憶があります。

私が間合いを詰めていった瞬間、「ゴン！」と師範の正拳中段突きが入りました。

まるでコンクリートか鉄の砲丸をを叩きつけられた様な突きだったのを記憶しています。

また、基本や移動や型を見るにつれ、その技の完成度に感心したのを覚えています。

発足当時は、松岡師範代や河野先輩など、多支部からの黒帯先輩も入ってこられましたが、まるで古くからの道場生のような感覚で溶け込めて行ったのを思い出します。

言い忘れましたが、支部発足すぐに、私の色あせた茶帯を見た岩田師範は、「近藤、早く昇段受けろ～」の一言で「押忍」と返事。

受審し、昇段を頂き、現在に至ります。

■ 徳島へ、再び香川支部へ

再び転勤で徳島へ。しばらくは空手も出来ないほどの忙しさでしたが、再び指導員として復活しました。

徳島支部でも多くの仲間ができ、また、三宅師範には再び公私にわたりお世話になったことを感謝しています。

そして再度香川支部へ。

もう40歳過ぎという事で空手や戦っていくという事への情熱は薄れるのかなとも感じましたが、思えば岩田師範が

香川支部長になられたのが同じ年頃でした。

10年前の師範は、本当にイケイケで道場を拓げていき、自ら稽古をつけ、香川支部を作り上げていこうと戦っていました。私もイケイケで勝負しなくてはなりません。

現在、丸亀道場と本部道場を中心に指導させて頂いていますが、自分の「想い」以上に、後輩や少年部への「想い入れ」が強くなっていくのを感じます。

ひ弱でヤンチャで中途半端だった私でも、極真カラテを伝える身になってしまいました。

皆さん、できない事はない、道は無限にあると思いますよ。

■ 今後の香川支部、そして極真空手、人生への思い

すごく長くなるので、今思っていることだけを書きます。

(1) 「物事をなしえない人は、「でも・・・」と言って動かない。

物事をなしえる人は「いや、だからこそ！」と言って動く。」

入門の時、少年部のお母さんは、「うちの子は気弱で。」とか「ワンパクで手におえない」とおっしゃいます。

一般部の方は、「身体が硬くて。」「スタミナがなくて。」

人間、未完成なのが当たり前です。「だからこそ、始める！」

(2) 「人生は時間です。『生きていくこと=時間がたつこと』」

文字のとおりです。「タイム・イズ・マネー」じゃありません。

時間こそ命そのものなんです。

人生は換金できませんし、過去を悔いても仕方がありません。失った昨日は取り戻せません。

だから、今日できることを探し、明日の自分を作っていきます。

(3) 「夢を追い続ける。」

岩田師範も常々おっしゃいますが、生きていくことは「夢」を追うことに他ならないと思います。夢なくしては生きている価値がないです。

どんな小さなことでもいいですから、夢を持って、そして現実に向かって一步を踏み出してください。

80歳になっても90歳になっても、現実的に夢を語っている人はたくさんいらっしゃいます。

(4) 「周りの人を喜ばせる。」

極真精神の中にありますが「他を益する」つまり、まわりの人を喜ばせてあげることが、自身の幸せや生きがいの創造につながっていきます。

実践するのはとっても簡単なことです。

よくよく考えれば、自分の幸せだってお金だって食べ物だって、他の人から与えられたり受けたりするものばかりです。

以上、まだまだ未熟な私が感じたことを書きましたが、総てが極真カラテに触れて培ったものですし、道場生始め、関わった皆さんに感じて欲しいことです。

今後ともよろしく願いいたします。

押忍

極真会館を退会、休会されるときは、必ず東京総本部。県支部事務局に電話をしてください。
連絡、手続きを行わない限り、会員として年会費、および月会費は、引き落とされます。
連絡なしに引き落とされた会費は返金できませんのでお気をつけください。

事務局の電話番号 0877-28-8880 FAX0877-28-9888

道場稽古のお休み

5月 15日(土) さぬき道場開き 16日(日) 支部内試合

6月12・13日(土・日) 全日本ウエイト制大会 19日(土) 県本部上福岡道場のみ休み

20日(日) 香川支部の審査会のため 7月25日(日) 全四国大会

注：道場によっては異なることがありますので指導員までお確かめください。